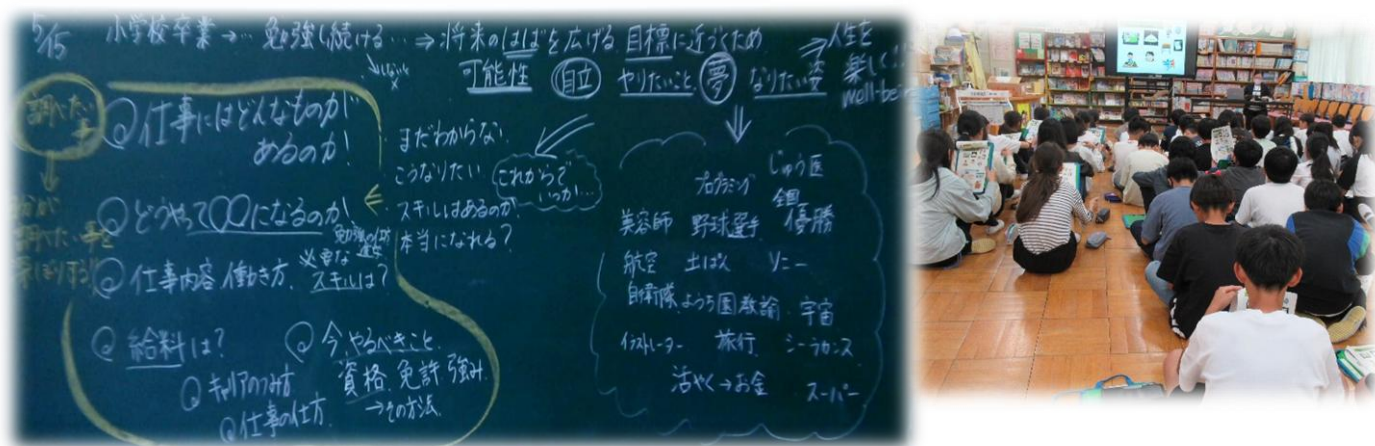


⑤ 6年生の実践記録

ア. 本年度の取り組み

「キャリア」を材に、1学期は将来なりたい自分に近づくための課題設定をする、2学期は実際に行動する、3学期はこれまでの学習を活かし中学校生活への理解と自信を高めるという単元の流れで行った。



1学期、将来どんな自分になりたいかを考えることをきっかけとし、職業調べを行った。インターネットサイトの活用はもちろん、保護者の方へのインタビューや朝霞職業安定所の方からの講義を通して、働くとはどういうことか、なぜ働くのか、どんな職業がありその職に就くにはどんな力が必要なのかについて調べることができた。そして、調べたことを基に、将来なりたい自分に近づくための課題設定を行った。課題解決に向けて自分で立てた計画を友達に見てもらい、互いにアドバイスをしあう活動を通して、互いの夢を応援し合ったり、どんな行動ができるか共に考えたりすることができた。2学期は実際になりたい自分に近づくために立てた計画を実行していく。これからどんなことができるか考えたり、やりたいことが明確になったりする過程を楽しむ様子が見られた。



2学期は、いよいよ計画を実行した。児童がなりたい自分に近づくためにインタビューや体験を中心に活動を行った。コミュニケーション能力を高めるために低学年の授業サポートに継続的に行く児童や、校長先生や養護教諭に話を聞いたり仕事を手伝ったりする児童もいた。また、スポーツ選手になりたい児童の活動を、動画編集をしたい児童が撮影し、共に動画を作り上げることもできた。また、総合の時間を2時間続きで確保することで、時間いっぱい活動に取り組める日を設定した。ある児童はチョコミントの魅力を伝えるために実際に考えたレシピで調理をし、友達にふるまうことができた。また、美容師になるために取り組んでいる児童は、友達の髪の毛を使いヘアアレンジすることができた。学期の中間には活動報告会を実施し、これまでの活動の成果と課題の確認を行った。自分の活動をふり返るとともに、友達がどんな活動をしているかを共有することで、後半の活動計画を修正する児童も見られた。後半も児童が主体的に活動を進める中で、さいたま地方検察庁の検事、事務官の方に話を聞いたり、クリニックや動物病院の先生方にインタビューをしたりすることができた。活動のまとめとして、活動報告書を作成し、成果を

報告し合う。児童一人一人の活動成果を認め合い、活動を通して「働く」ことへの意識がどう変化したかを明確にしていく。さらに、本校の隣にある新座総合技術高校との連携を図り、学校訪問・体験授業をさせていただく。専門的な学習が行われている新座総合技術高校の生徒との交流を通し、働くことを意識して学んでいる先輩から将来の自分の姿を想像したり、このように魅力的な学びや選択肢がたくさんあることに気付かせたりしたい。



3学期は、中学校生活への理解を深めたり、期待を高めたりすることを目標としている。特に中学校生活における不安や疑問を解決し、自信をもち小学校を卒業してほしいと願っている。児童が抱く不安や疑問を明確にし、その解決のために情報を集める活動へとつなげたい。そのためにも、学区である第三中学校と連携を図り中学校生活を体験したり、先輩から話を聞いたりする機会を設ける。中学校進学に向けて今やっておくべきことや自分の課題を把握し、未来に向けた行動を実行させたい。

小学校卒業が迫る児童にとって、将来なりたい自分に近づくために行動する今回の学習は大変意義のあるものだったと感じる。働く意義は人によって異なる。それに伴い児童の課題や活動も一人一人異なってくる。進路を決めるとはそういうことで、周りと合わせるのではなく自分で選択していくものだと学ぶこともできたと考える。児童の活動に伴走するために、教師も様々な選択肢をもち計画的に取り組むことが重要である。また、今回つながりをもつことができた方々と今後もより深く関わりをもち続けられるよう児童の活動のフィードバックや感謝の気持ちを伝えること、また引き継ぎを確実にやっていく。

イ. 実践しての成果 (○) と課題 (●)

【児童】

- 必要感や自分の夢に近づいていると実感できる課題により、児童が意欲的に活動に取り組むことができた。
- 課題は異なっても友達と協力しながら考えて行う活動が、学びの楽しさや深まりにつながった。
- 自分で学習を組み立て、進めることに楽しさを感じることができていた。
- 課題設定が曖昧な児童ほど、活動の楽しさが充分に感じられていなかった。

【教師】

- 目指す児童像や学習のゴールを明確にしたことで、教師もゴールに向かって計画を立て児童の活動に見通しをもち学習指導を行うことができた。
- 夢に向かって活動することを通して、児童一人一人の個性やその良さに改めて気付くことができた。
- 課題設定、活動計画が充実するよう、教師も様々な選択肢を用意し、どの児童もこれからの活動が楽しみなるような課題設定が行えるようにする。

ウ. 来年度に向けて

- ・児童の計画が多数実現できるよう、様々な人とのつながりを引き継いでいく。